

## 第四次長野市子ども読書活動推進計画 進捗状況調査票【数値目標進捗状況】

令和6年3月末現在

No.	担当所属	指標項目	計画策定時 現状値 (令和3年度)	計画最終年度 (令和9年度) 目標	令和5年度末現在 実施状況	現況・課題	今後の方向性
1	家庭・地域 学びの課	「おひざで絵本」事業での絵本配付率	87.7%	92.4%	配布人数2,161人 配布率92.7%	・7～8か月児健康教室に参加できず、かつ市への連絡がない家庭に対して、事業の存在や読み聞かせの意義を周知していく。	・ICTの活用および子育て世帯を対象としたイベント等の実施により、事業の周知を行っていく。
2	市立図書館	市立図書館における児童書の蔵書冊数 (0～12歳一人あたり)	234,117冊 (6.09冊)	243,000冊 (7.19冊)	241,011冊  【長野図書館】125,511冊 【南部図書館】115,500冊 (本館76,733冊、市民文庫5,825冊、移動16,125冊、分室16,817冊)	【長野図書館】 ・児童書の蔵書冊数は、R4 237,758冊、R5 241,011冊と毎年度、着実に計画的購入を実施している。	・今後も事業を継続し、児童書の更なる充実を目指す。
3	市立図書館	市立図書館における児童書の貸出冊数 (0～12歳一人あたり)	554,233冊 (14.4冊)	565,000冊 (16.7冊)	529,545冊  【長野図書館】353,182冊 【南部図書館】176,363冊 (本館123,107冊、移動29,653冊、分室23,603冊)	【長野図書館】 ・児童書の貸出冊数は、R4 333,569冊、R5 353,182冊と毎年増加している。	・今後も図書館資料の整備・充実を図り、より読書に親しむためのイベント等を行っていく。今後も事業を継続し、児童書の更なる充実を目指す。
4	市立図書館 家庭・地域学 びの課	図書館分室における児童書の貸出冊数 (0～12歳一人あたり)	23,624冊 (0.61冊)	24,000冊 (0.71冊)	23,603冊	・図書館分室における児童書の貸出冊数(28分室合計)は、R03 23,624冊に対し、R05 23,603冊。R05は前年度より微増。	・今後も事業を継続し、図書館分室における児童書の貸出冊数が増加していくように努める。 最終目標の達成を目指す。
5	市立図書館	市立図書館おはなし会参加者数	1,322人	2,340人	3,420人  【長野図書館】3,007人 【南部図書館】413人	【長野図書館】 ・子どもの年齢に応じた内容のおはなし会を定期的に開催している(長野図書館:週3回) ・「おはなし会カード」を作成してリポーターを増やしており、すでに目標値を達成した。 ・「読み聞かせ講座」を開催し、読み聞かせボランティアの養成を行っている。 【南部図書館】 ・子どもの年齢に応じた内容のおはなし会を定期的に開催している。	・今後も事業を継続し、更なる内容の充実を図り、参加人数の増を目指す。また、曜日や時間帯等はアンケート等により工夫・改善し最終目標の達成を目指す。
6	家庭・地域学 びの課	読み聞かせを行う市立公民館・市交流センター (割合)	18 (62.1%)	29 (100%)	22 (75.9%)	・公民館主催の講座に合わせ、絵本・紙芝居などの読み聞かせを行っている。 ・地区内で対象となる乳幼児の数が減少している。	・公民館利用団体や子育てサークルなどと連携して今後も親子で絵本に触れる機会を作っていく。 ・今後参加者数が減少するようであれば、対象者を変えるなど講座の維持発展ができるように内容の見直しも検討していく。
7	学校教育課	読書週間・旬間の設定	小学校 96.3% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 96.2% 中学校 100%	・中学校については、目標を達成することが出来たが、小学校に関しては、目標数値を下回っている。 ・読書旬間やイベントがあると来館者も激増し、大いに盛り上がるが、高学年の来館が伸びない事が課題。	・外部団体による読み聞かせや図書委員・先生方からの読み聞かせのほか、全ての児童生徒が読書への意欲を持てる機会を企画をする。 ・読書旬間や読書関連活動を利用し、読書が好きな子、図書館利用ができる子を増やしていく。 ・高学年の児童に魅力ある企画を計画する。
8	学校教育課	「学校図書館図書標準」達成学校数の割合	小学校 100% 中学校 84%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 98.0% 中学校 84.0%	・小学校、中学校ともに、令和3年度の現状値を上回る事ができず、目標値の達成には至っていない。 ・「学校図書館図書標準」は、蔵書数の評価であるが、蔵書の質、学習ニーズに合った蔵書であるかの検証も必要である。	・今後も必要に応じて学校図書館の予算措置をしていく。 ・「学校図書館廃棄基準」、「学校図書館メディア基準」等での評価・検討を行う。